

入野小学校

GRIT(やりぬく力)を
育て、命を輝かす!

校長 前田 浩文

◆はじめに

23名の新入生を迎え、全校児童124名で、2018年度の教育活動がスタートしました。

子どもたちが、安心して生活ができ、自由に表現し、そして、自信のもてるような学校を創造することを念頭に置きながら取組を進めています。

◆学校教育目標

「GRIT(やりぬく力)を育て、命を輝かす！」

心理学教授アンジェラ・ダックワースさんの調査によると、自分の夢や目標を達成した人が備えている力は、「やりぬく力」であると結論づけています。その力の源は「自尊心や成功体験」ではないかと言われています。そうした側面から「やりぬく力の育成」として本校の教育目標に位置づけました。

この目標を基に、私たち

は、校内の研究について「主体的に考え、行動し、未来を創造する力を育てる」プロジェクトを育てる「プロジェクト能力・コミュニケーション能力・フューチャー能力」の育成に取り組んでいます。

◆学力向上◇授業改善

授業改善の1つのツールとして、ICTを積極的に活用しています。全学級にプロジェクター・パソコンなどICT機器が設置されているので、子どもたちにとってよりわかる授業を創造することができます。

本校の学力を基礎的な力と応用的な力で観ると、応用的な力に弱さが見られます。



す。特に記述式問題では課題を正しく理解し、筋道を立てて考え解答するというところからです。それを克服するための対策として、ICT活用とともに授業の中で、その時間のめあてをしっかりとおさえ、まとめと振り返りを着実にしていくこと、習ったことをしっかりとノートに整理すること、友達と意見を交換して理解を深めることに努めています。

このような日々のルーティンによって、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・フューチャー能力が培われていきます。この力は、将来、生きて働く力となると考えています。

◆豊かな心◇生き方に学ぶ

私たちは、授業はもちろんのこと、全ての教育活動において「褒めて・認めて・励ます」というモットーで臨んでいます。子どもたちのあいさつの様子や、善行、がんばったことなどを見過ごすことなく全体の場や学級で評価することで、子どもたちの自尊心(自分を大切に思い、自信を持つ)

の高まりを期待しています。また、ボランティアによる読み聞かせ朝会や読書活動の奨励、そして、人権教育参観日には、講師を招いて講演会を開くなど、人としての生き方について学んでいます。

◆体力向上◇多様な動き

毎朝のマラソンから一日がスタートします。体育の授業の充実はもとより、水泳記録会、運動会、陸上記録会、マラソン大会などの行事と関連させながら、多様な動きと体力を高めるために年間を通して計画的に取り組んでいます。

◆防災教育◇人間力の涵養

本校は、高知県実践的防災教育推進事業の指定校として、2年目を迎えました。地震・津波のメカニズムについての知識学習をはじめ、「思考力・判断力・表現力・行動力」の基礎を養うための教科学習や命の学習、そして、避難訓練などを通して実践的な学びを深めています。また、保護者・地域とのつながりを図るために、防災教育参観日を設け、

講演会や引き渡し訓練、炊き出し訓練を企画・実践しています。

このような取組を通して、自らの命を守り、家族や友人、地域の方々を思いやる人間力を養いたいと考えています。



◆黒潮町の「ふるさと・キャリア教育」

子どもたちが故郷を愛し、故郷に誇りを持って、人の役に立つ生き方ができるようにと願って、地域総がかりで支援していくのが、「ふるさと・キャリア教育」です。子どもたちが、故郷を思い、故郷に貢献する、そんな将来像を描きながら教育活動を展開したいと思えます。

佐賀小学校

夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成

校長 陸野 高俊

◆はじめに

今年度は、児童数81名、8学級(通常学級6、特別支援学級2)、教職員数15名でスタートしました。

学校の教育目標は、「夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成」です。そこに迫るために、「自立(たくましく生きる)」、「共生(ともに生きる)」、「貢献(人の役に立つ)」をキーワードに教育活動を展開しています。

また、大切にしたいこととして、今年も4つの約束を掲げ、A B C Dの法則(※)で取り組んでいます。

- ① あいさつをする
- ② 返事をする
- ③ 履物をそろえる
- ④ 無言で移動する

※(A)当たり前のことを、(B)ばかにしないで、(C)ちゃんとやる、それが(D)できる人。

◆確かな学力について

ここ数年の標準学力調査、

全国学力・学習状況調査の結果からは、全体として、活用の力や国語の「読むこと」にかかわる力に課題があることが明らかになりました。

また、日々の姿からは、人の話を聴いたり、自分の考えを表現したりする力に課題が見られます。これらの課題を克服するために今年度は研究主題を「よく聞き、自ら考え、伝え合える子どもを育てる」主体的・対話的な授業づくりをめざして「〜」として、国語科を中心に研究を進めています。

① 学級経営の充実

学習意欲や学習態度は豊かな学級集団を土台として育まれます。そのため学級経営の充実が不可欠です。

② 学習規律の徹底

学びの姿勢づくりとして、学習規律を大切にしています。

③ 対話と振り返りの重視

「表現する力」の育成が学力課題克服へのカギであると考えています。そのため、授業では、必然性のある学習課題により一人ひとりが考えをもつこと(思考と表現は表裏一体)、その考えを対話により表現し合うこ

と、学びを振り返りにより表現することを大切にして授業を展開しています。



算数科の授業(考えの説明)

④ 児童会活動とのタイアップ

子どもたちからの学力向上策として学習委員会が活動しています。自分たちで問題を作り、全体に投げかけ、学習への動機付けを行っています。

⑤ 夏の「学びたい夢」(小中連携の取組)

夏休みの加力補習(「学びたい夢」にも全学年で取り組んでいます。場所は佐賀中学校。冷房の効く部屋を提供してもらい、中学3年生や中学校の先生方にも協力してもらって実施しています。丸つけをしてもらったり、わからない問題を教えてもらったりと、うれしそうなお子どもの姿が印象的です。

⑥ 朝の読み聞かせ(小中連携)

読み聞かせボランティアとして、島内理絵さんや松田真紀さん、中学3年生が読み聞かせに来てくれます。中学生は近況報告や子どもたちへのメッセージなども語ってくれ、大変刺激になります。



中学生による読み聞かせ

◆ふるさと・キャリア教育

過日、地域の方から次の言葉をいただきました。「子どもたちには、地域に誇りと愛着を持って生き抜く力、地域に貢献できる力を身につけさせてほしい」。まさにこれが、「ふるさと・キャリア教育」だと思います。

今年も地元の浜田富男さんに協力していただき、5・6年生は田植えと稲刈りの体験、秋には収穫祭を行います。また、4・6年生は「三世代ふれあい健診」今年も参加します。子どもたちにとっては、地域をフィールドにした貴重な体験学習の場です。

このように、生活科や社

会科、総合的な学習の時間などを中心に、体験的、探究的な学習を展開していきます。その中核となるのが人権学習です。地域を学びの場に、地域の人々との出会いを通して、ふるさとやそこに生きる人々のすばらしさに気付き、自らを見つめるとともに、学びへの意欲を高め、将来への展望を見出していく。3学期に行われる「佐賀っ子解放祭り」は、ふるさとキャリア教育での学びを具体的に表現していく場でもあります。このような学びを通して、命や人権を大切にして生きてい、地域や地域の人々の役に立ちたい、貢献したいと思う子ども、ふるさと大好きな子どもにも育てていきたいと考えています。



佐賀っ子解放祭り(6年生)